研究推進校事業報告書

〈取組と成果のポイント〉
　地域に愛着をもち、人との関わりを大切にし、生まれ育った地域へ感謝の気持ちを表現できる生徒の育成を目指して、道徳科の授業を要として、様々な体験活動や地域で活躍されている方々に触れる機会を多く設定した。そのため、地域の未来の発展について、前向きな思いをもち、自分たちが行動することが伝統の継承につながることになることに気付き、地域を大切に思う気持ちを高めようとする姿が見られた。

1　研究推進校の概要

学　校　名	所　在　地	電話番号	児童数	備　　考
豊田市立小原中学校	豊田市永太郎町馬場 59 番地	0565(65)3011	56 人	

2　研究課題

（1）　道徳授業のスタイルの確立

〇研究を進めるに当たって、年３回外部講師を招き、年間カリキュラムの作成、指導方法や評価方法等についての校内研修を行う。

〇話合い、かかわり合いの基礎を養い、主体的・対話的で深い学びにつながる授業づくりへの取組を行う。

（2）　家庭・地域との連携による道徳教育の取組

〇これまでも、学校行事や総合的な学習の時間の中で、地域の伝統文化である「小原和紙」「四季桜」「小原歌舞伎」などを扱ってきており、今後も続けていく予定である。地域講師から小原について学ぶ機会や行事の前後をねらい、タイムリーな内容で項目を明らかにした道徳科の授業を行い、行事に対する意欲を高める。

〇行事と共に道徳科の内容について、道徳通信やホームページ、学校だよりを活用して保護者や地域に広め、共通理解を深め、連携を図っていく。

（3）　生徒の考えや思いを積極的に受け止め認め、励ます評価の工夫

〇生徒のワークシートの記述から、学習状況や道徳性にかかる成長の様子を把握し評価する。

〇生徒の反応をもとに、次の授業の改善を図る。

〇生徒の学びを道徳通信に載せて発行する。

【現状と目指す姿】

生徒の姿

<現状　プラスの部分>

○　何事にも素直に取り組むことができる。

○　異年齢に優しく接することができる。

○　地域に大切にされており、地域ボランティア活動に積極的に参加している。

○　小学校からの地域学習の実践があり、地域のよさを知っている。

<現状　マイナスの部分>

△　地域の不便さばかりが目立ち、地域への愛着が湧きにくい生徒が多い。

△　自信をもって自分の意見を発表することが難しい。

△　友達の意見について深く考えることが苦手である。

<目指す生徒の姿>

地域に愛着をもち、生まれ育った地域へ感謝の気持ちを表現できる生徒

3　研究主題

（1）　研究主題

研究主題名

「特別の教科　道徳」を要とした道徳教育の充実

－「考え、議論する道徳」の指導と評価－

（2）　主題設定の理由

本校は、教職経験５年目までの若い教員が多い。道徳の授業にも真剣に向き合っている。主任、担任、副担任によるローテーション道徳や他学年の道徳授業の参観、そして中心発問を重視した指導案の検討会など、授業力向上に励んでいる。しかし、これまでの取組においては、単なる生徒による生活経験の話合いや登場人物の心情の読み取りの授業を脱却できず、「自分事として」考えを深め、話合いの中で「多様な価値観の考え方」、また時には対立するような「考え、議論する道徳」までには至っていない。

そこで、令和３年度の現職教育のテーマ「他と関わりながら、考えを深める生徒の育成-考えや思いを主体的に伝え合う活動を通して-」の中心を道徳とし、外部講師による授業改善のための指導を受け、実践することで、授業力アップを図りたい。

また、生徒の発達段階を考慮しながら、地域の伝統文化である「小原和紙」や「四季桜」を中心とした多様な体験を計画的に実施し、体験における道徳的諸価値を道徳教材に基づく話合いによって生かすなど、創意工夫ある指導を行う。そのため「『特別の教科　道徳』」を要とした道徳教育の充実―『考え、議論する道徳』の指導と評価―」をテーマとし、目指す生徒像に挙げた「地域に愛着をもち、生まれ育った地域へ感謝の気持ちを表現できる生徒」を育成できるように指導方法と評価の研究を重ねていく。

４　研究の概要及び特色

（１）　研究の仮説

Ⅰ　その教材ならではの発問、生徒の心を刺激する問題意識を高める発問を工夫すれば、生徒の活動や心の動きに重点を置いた道徳の授業実践ができるであろう。

Ⅱ　地域で活躍されている多様な人の生き様や伝統文化を継承する体験活動など、感動をもって学びとる機会をもてば、地域への愛着や思いを深めることができるであろう。

Ⅲ　生徒の発言やワークシートから、心の変容や「道徳的な価値発達段階」が向上したところを読みとっていくことで、よりよい評価ができるだろう。

（２）　研究の手立て

Ⅰ　「考え、議論する道徳」を実践するため、本音を引き出す問い返しや切返しの発問などの指導方法の研究

〇外部講師を計画的に招聘し、道徳授業における発問構成や、構造的な板書、教師の発話についての指導法の研究をする。

①「授業づくりアイディアシート」を生かした指導案検討と職員室内に「道徳コーナー」の設置

②　道徳授業で活発な意見交流のための「小さな道徳」「考えタイム」の実施

Ⅱ　地域の伝統文化を大切にした多様な体験活動とリンクした道徳授業の実践や道徳科の公開授業など、家庭・地域との協力体制の構築

〇地域を見つめ、考え、よりよい生き方を考える場を設定する。

〇道徳科の授業の様子を、道徳通信やホームページに掲載し、思いを共有できる活動を行う。

①　地域の現状を知る地域講師の話を聞く会の実施

②　地域の方々と交流を深め、地域の良さに気付くための地域貢献活動の実施

③　zoom を利用した小原の良さの発信活動

【小さな道徳の様子】

【職員室内の道徳コーナー】

【考えタイムの様子】

【道徳の授業の様子】

（３） 研究組織　　３つの部会を編成し、道徳研究を推進する

Ⅰ 研究推進委員会
◎主題にせまる道徳授業のマネジメント
・道徳科の全体計画
・年間カリキュラムの作成
・研究構想の提案

Ⅱ 授業研究部
◎道徳授業のスタイルの確立
・発問、議論の仕方の検討
・主体的な話し方、聴き方の提案
・構造的な板書、ワークシートの研究
・指導案モデルの作成
・道徳通信、掲示物の作成・掲示

Ⅲ 地域教材研究部
◎家庭、地域との連携による取組
・地域人材の発掘・交渉
・人材活用方法の検討
・地域の伝統・文化等を題材とした地域教材の開発

（４） 研究計画

月	実施内容
４月	・研究推進委員会（校内研究組織発足、主題研究（道徳科）の方針・研究仮説、研究の手立て、年間活動計画等検討）
５月	・研究推進委員会 ・現職教育全体会
６月	・全学年指導案作成　　検討（道徳授業研究部） ・講師招聘による全クラス道徳授業の公開と研修会 ・実践の結果を発表しあい、成果と課題を共有し合う ・生徒の実態把握（アンケート実施）
７月	・道徳科授業参観の実施
９月	・地域講師の話を聞く会 ・指導案作成　１年部　　検討（授業研究部）
１０月	・学校祭（地域貢献活動） ・指導案作成　１年部　　検討（授業研究部） ・講師招聘による研究授業の実施　　１年部 ・実践の結果を発表しあい、成果と課題を共有し合う ・授業のまとめ　１年部 ・指導案作成　２年部　　検討（授業研究部）
11 月	・校内授業研究　２年部 ・講師招聘による研究授業の実施　　２年部 ・実践の結果を発表しあい、成果と課題を共有し合う ・授業のまとめ　２年部 ・指導案作成　３年部　　検討（授業研究部）

	・山間部の中学校との交流（地域の良さを伝えよう）
12月	・講師招聘による研究授業の実施　　3年部 ・実践の結果を発表しあい、成果と課題を共有し合う ・授業のまとめ　3年部 ・生徒と教員、保護者への道徳アンケートの実施
2月	・研究のまとめ

5　研究の実際

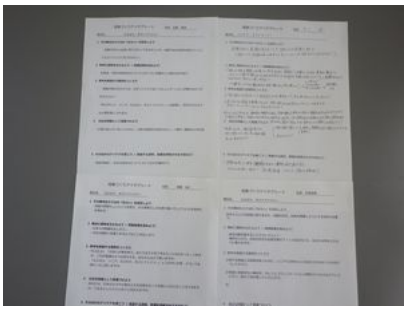
（1）授業研究部

問題意識が高まるような導入や、生徒が思わず考えたくなる意味のある発問を考え、主体的に授業で学んでいく姿を目指して、次のような授業を設定した。

本時の学習のねらいに迫るための授業の基本構成づくり

◎　道徳の授業パターンの確立

①「授業づくりアイディアシート」を生かした指導案検討



【授業づくりアイディアシート】

（ア）授業を構成する４つのステップ

・その教材ならではの「ねらい」を設定する

授業づくりアイディアシートを活用して、生徒に深く考えさせたいことをねらいのことばとして設定する。

・教材に興味をもたせる　<導入>

教科書教材を読んだあとに、問題意識を高められるように心を揺さぶる発問をすることで、より深く考えるよう促す。

・本時の学習のねらいに迫る思考を刺激する発問づくり<展開>

教科書教材を深く読み込み、ねらいに迫る発問づくりをする。教師自身が疑問に感じたことを大切にし、生徒に何を考えさせたいのか、全職員で授業づくりアイディアシートを記入し、発問の検討を行う。同じ教材で発問を考えているにも関わらず、ほぼ職員全員がねらいとする観点が異なり、それを授業研究部で検討をし、指導案を作り上げた。会を重ねるごとに、道徳授業への理解や手ごたえを感じることができた。

・身近な問題として意識づける<終末>

相手の意見から何を考えたか発表させ、子供たち同士で共有する時間をもたせる。

【授業の板書】

（イ）生徒が考えたくなる板書

・意見の羅列ではなく、生徒に黒板を使って思考の道筋を「見える化」し、構造的に板書をする。

（ウ）指導案の作成

基本的な指導案の流れは以下の通りである。

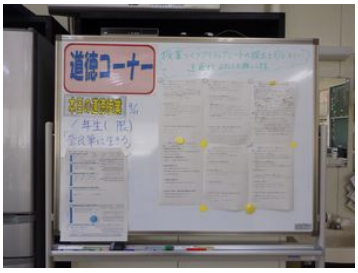
A　授業づくりアイディアシートの職員への配付と回収

B　授業研究部にて、ねらい・導入・発問の検討

C　指導案作り

（エ）「道徳コーナー」の設置

職員室内に「道徳コーナー」を設置し、本日の道徳授業のお知らせ、参観のポイント、指導案、授業づくりアイディアシート、小さな道徳のお題、授業後のアドバイスなどを共有した。



【アイディアシートの共有】

〈成果〉

・導入では、教科書教材によって子供たちが考えたくなるしかけをすることができた。

・授業研究部で予想される意見について検討し、ねらいに迫る板書を意識し、板書計画を作成した。

〈課題〉

・生徒たちから出た意見を板書する際、構造的な板書にならず、視覚的に分かりづらい板書になることがあった。

・効果的な色チョークの使用も推進したい。

②道徳授業で活発な意見交流のための「小さな道徳」「考えタイム」の実施

（ア）小さな道徳授業の実践

ちょっとした身近な素材をとりあげ、思ったことを自由に伝え合う道徳授業を朝の帯学習の短い時間で行った。素材はポスター、新聞のコラム、絵本の表紙、チラシ、子供の姿、映画、ラジオ、自然、漫画など生徒が興味をもって考えられるものを開発した。

【小さな道徳お題】

9/ 9	ジュースの紙パックをたたむと「たたんでくれてありがとう！」の文字が現れます。どう思いますか？
16	「子供じゃないから吸えない」「20 歳未満は吸えない」の子供じゃないからの部分を隠して、考える。
30	「〇〇はあなたの味方」「夢はあなたの〇〇」
10/ 7	ディズニー掃除の神様「子供が床に落ちた〇〇を拾って食べられるくらいにきれいにしたいんだ。」から何を思う？
14	「謝っておけば・・・ハガキでごめんなさい」を読んで
21	この写真を見てどう思いますか？昇降口できれいに整った傘の写真

〈成果〉

・教材提示の工夫により（実物を見せるなど）、生徒の発言しようとする意欲の向上が見られた。

・５分から１０分の短時間道徳のために、教師も生徒も楽しみながら、授業を行うことができた。

〈課題〉

・時間の問題もあり、身近な問題として意識づけるところまでは、進まなかった。

・思考を刺激する発問の工夫が必要である。

（イ）考えタイムの実践

グループでの対話が意見の伝え合いだけに終始しないように、グループでの話合い活動を行った。生徒同士が主体的にやりとりをした。考えタイムのお題は、生徒が話し合いたいテーマを自分たちで考えた。

【考えタイムのテーマ】

7/　1	ソーラン踊りを後輩にどのように教えるか。
8	将来住むなら田舎か都会か。
15	好きな人を選ぶとき重視すること、見た目か中身か。

〈成果〉

・司会者を固定してグループでの話合い活動を１０分間で行った。自分たちで考えたお題に対して、真剣に考え自分の意見を堂々と発言する姿が見られた。

〈課題〉

・グループでの話合いは３人が適正人数だった。５人以上のグループでは、意見を発表しない生徒が見られた。

【教室内掲示】

③評価に関して

（ア）生徒一人一人の成長や努力を把握し、学習状況に着目した認め、励ます評価の追究

・毎時間のワークシートから、心の変容や「道徳的な価値発達段階」が向上したところを読み取った。

・「考えの足跡」としての授業記録、道徳通信を掲示した。

（イ）生徒自らの振り返り「前期の道徳授業を振り返って」の実施

・前期の道徳授業を振り返り、後期に向けての自分自身のめあてを考えた。

*道徳の授業で学んだことについてよかったことはどんなことですか。

まわりの人の意見を聞くことによって、
新しい発見や考えが生まれること。

一つの事が当たり前だと思っていたけど、深く考えると、
新しい考えも得ることができ見方が変わって、生活に生かせると思えたこと。

*後期の道徳科の授業について、どのように取り組もうと考えていますか。

積極的に意見を言ったり、他の人の考えも聞いて
新しい得る。

相手の意見をしっかり聞いて悩むことをしたいです。前は早く
選択していたけど、しっかり悩んで、選択していきたいと思います。
相手の意見をきくと「なるほど」と納得できたりするから。

（ウ）生徒の振り返りから教師の授業改善（よりよい授業づくり）

・生徒の深い学びとなるように、授業後、再度指導案を検討し、修正されたものを教職員間の共有フォルダーに蓄積し、教職員間で指導案の共有をした。

（２）地域教材研究部

地域を愛し、人との関わりを大切にしながら、考えを深める生徒の育成

―地域連携による道徳教育の取組―

総合的な学習の時間と密接な関連を図りながら、自己の生き方を見つめる

◎　地域の方々との協働的な活動を通した授業づくり

①自分が暮らす地域を見つめる「地域講師の話を聞く会」

小原歌舞伎、四季桜、小原和紙、軽トラ行燈パレード、手筒花火、小原支所、小原町づくりの会など、伝統を守り、地域で活躍されている８名の方々を講師にお迎えし、地域の今、そして将来に対する思い、中学生へのメッセージについて話を聞いた。それぞれの方のお話を聞くことで、自分が暮らす地域について見つめ直す機会となった。１年生の道徳科「奈良筆に生きる」においては、「伝統を時代によって少しずつ工夫して変えながら残していく」「伝統を残してきた人の思いを知る」と発言するなど、この体験をもとに伝統を守ることの大切さについて考えを深めることができた。

【地域講師：手筒花火】

【地域講師：小原歌舞伎】

【地域講師:小原まちづくり】

【地域講師：小原和紙】

②地域の方々とふれあい、感謝の思いを伝える「学校祭」

誰でも楽しめて、地域の方と交流が深められるような地域貢献をするために、地域のためになる企画を考え、準備した。全校生徒を４つのグループに分けた。同じグループの生徒同士で協力し、意見を出し、今の自分たちにできることを考え、活動した。

・地元の四季桜の枝の皮をむき、１センチの厚さに切り、コースターを制作
・歌舞伎のセリフの言い回し練習や隈取体験
・小原の砂で作る泥だんご
・地域への感謝を込めた行燈を制作し、小原の町中を走る軽トラ行燈パレードに参加

保護者だけでなく、お世話になっている地域の方々を学校祭に招待し、自分たちで考えた活動で地域の方に感謝の気持ちを伝えることで、地域の良さを再発見することができた。２年生の道徳科「さよならホストファミリー」においては、「自分の地域のことをもっと知りたい」や「小原に住んでいない人に地域のことを紹介したい」とワークシートに記入するなど、「地域の良さ」についての考えを深めることができた。

【学校祭：小原和紙】

【学校祭：小原四季桜工作】

【学校祭：小原歌舞伎】

③山間部の中学校の生徒の交流を生かした授業づくり

「地域講師の話を聞く会」や「学校祭（地域貢献活動）」を通して、体験したことや学んだことをまとめ、他の中学校の生徒に小原の良さを zoom で伝えることができた。発表を通して、お互いの地域の良さを共有し、自分が暮らしたことのない地域についても知識を深め、視野を広げることができた。

【zoom 配信の様子】

【zoom 配信の様子】

6　研究の評価

（1）研究の成果

・道徳の授業前には、全職員で「授業づくりアイディアシート」を作成し、指導案検討会を行った。授業者だけではなく、全教職員が授業をする気持ちで取り組み、「自分だったらどのようにねらいを設定するか」「発問はどうするか」「構造的な板書をどうするか」を考え、活発に授業検討会が

できた。特に中心発問について検討を重ねた結果、生徒たちの本音を引き出したり、生徒たちが自分の言葉で表現したりする場面が見られた。

・これまでの振り返りには、「見た目」や「楽しさ」など第一印象で受けた意見の記述が多かったが、より深く考えるために、生徒たちの現状や目指す姿等を考慮した発問を設定した結果、記述内容に変化が見られ始めた。例えば、教材「小さな工場の大きな仕事」（勤労）について、何のために働くかの問いに対し、以前は「お金」と答えていたが、「やりがい」「誇り」など、新たな視点から考えを発表できた。

・生徒は地域で活動している方のおかげで充実した生活を送ることができていることを自覚するとともに、自分たちが行動することが伝統の継承につながることに気付いた。

・地域教材を生かした体験活動や地域講師に触れる機会を多く設定したため、小原の未来の発展について前向きな思いをもち、地域会議「小原リーダーズサミット」で語る姿が見られた。

・多様な意見に出会わせる機会を多く設定したため、自分と異なる考えに気付き、自分の考えを見つめなおすことができた。そこから友達の意見を聞くことの大切さに気づくことができた。

・今まで自分本位の考え方が多かった生徒が、友達の意見に触れることで、「人の気持ちを考えて生活していきたい」とワークシートに記入した。少しずつではあるが、クラスの中で友達を意識した行動をとる場面が見られ始めた。

・講師による最新の道徳授業に関する講義と、授業参観後の指導により、生徒のために意味のある道徳授業にするためには何が大切なのかが理解できた。

・担任以外の研究主任、学年主任、副担任も授業をすることで、互いの授業力向上の一助となった。

・授業の板書を掲示することで、子供たちの評価の参考となるとともに、構造的な板書に近づけているかなどを考えることができた。

・職員室内に設置した「道徳コーナー」では、全職員がお互いの意見や感じたことをホワイトボードに書き込んだり、指導案に付せんを貼ることで質問したりして、会を開催できないときでも意見交流ができた。

（２）今後の課題と取組

・単発的な学習に取り組むだけでは、生徒たちの郷土愛を育むには十分とはいえなかった。そのため、今後も継続的に地域教材や地域講師を活用し、郷土愛を育む学習内容について学べたり、伝統を支えていくための活動に出合わせたりする機会を継続的に設定していきたい。

・意見交流の中では、表面的な部分にとらわれ、地域の方の思いまで感じ取れない生徒が見られた。そのため、今後の授業の中で、内面に迫る問い返しや発問の工夫をしていく。

・なかには模範解答をしようとする生徒の姿がみられるため、本音を引き出せるための授業づくりを追究していく。

・道徳の授業では、地域社会の一員として周りの人と有効な人間関係を築いていくようにするため、地域教材や教科書教材など、生徒たちに必要な内容項目について、計画的に設定し実践していく。

・生徒の姿で学習の学びを示すことができるように、「自分が自分に問う」場面を適切に設定し、表現できるように支援していく。